

文化の扉

歴史編

実業家・渋沢



渋沢が頭取となった日本初の銀行
第一国立銀行(渋沢史料館提供)

「日本資本主義の父」
「銀行の神様」**渋沢栄一**



創設・育成に関わった
会社・事業は1000以上

目指したのは「合本主義」

公益を追求するため、最も適した人材
や資本を集めることを重視した

東京の町づくりにも関わる

田園調布などをはじめとする都市
計画の推進

民間外交に尽力

「青い目の人形」の交換事業
(1927年)などを推進

の会社が多く含まれる。
これほど多くの事業や会社の運営などに関わりながら、オーナーやトップにとどまることなく、新たな事業に挑み続けた。なぜか。渋沢史料館の井上

病院も

自然なことだった」
資本主義が急に流入した明治の日本。「商売はもうかればいい」という風潮が生まれ、海外でも問題視された。日本初の経済白書である「興業意見」

った欲望をエンジンに進む面があるが、時に暴走し、バブル景気などの惨事を引き起こす。渋沢はそれに歯止めをかける手段として論語を使おうとした。そんな渋沢の意図は今こそ、再評価されるべきだろう。
(編集委員・宮代栄一)

郷土に「10万円

渋沢は深谷市を含む埼玉は今も「郷土の偉人」だ。の名前も県北部出身の祖父(人)があやかってつけた。

渋沢栄一記念館の馬場裕長補佐によると、渋沢は故血洗島を愛し、祭りの際は

グラフィック・山本 美雪

31年	1927年	87年	73年	69年	67年	64年	63年	1840年
4月、日本女子大 学校長に就任 11月、死去	日米の「青い目の人 形」交換事業にか かわる	日本煉瓦製造、帝 国ホテルなどの設 立にかかわる	第一国立銀行総監 役に就任	民部省に出仕。翌 年、富岡製糸場事 務主任	スエズ運河が資本家 の手で築かれている ことに感動	パリ万博の幕府使節 の随員として渡欧	異人館焼き打ちを 計画 説得され断念	武蔵国血洗島村 (現在の埼玉県深 谷市)に生まれる 当初は尊皇攘夷の 志士として活躍